

トヨボタニソバ *Persicaria geocarpica* Suyama

【評価理由】

個体数階級 1、集団数階級 2、生育環境階級 3、人為圧階級 1、固有性階級 3、補正+1 (獣害)、総点 11。最近記載された植物で、愛知県が分布の中心である。

【形態】

1年生草本。茎は長さ 30~60cm、はじめ直立するがやがて上部が曲がり、枝を分けて垂れ、地に接するようになる。葉は長さ 1~3cm の柄があり、葉身は長さ 1.7~5.5cm、先端は多少なりとも鋭尖頭、基部はほぼ切形、浅く 3 裂し、頂裂片は三角形~卵状三角形で基部が最も広く、側裂片も三角形である。托葉鞘は長さ 1.5~3mm、短い縁毛がある。花期は 8~9 月、花は枝の先端にほとんど 1 個ずつつき、通常白色、時に帯紅色、しばしば閉鎖花状になる。茎の下部の節からも長さ 1.5~10cm の細い枝を出し、その先に閉鎖花をつける。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：1 富山 (芹沢 67334, 1993-9-2)、4 津具 (芹沢 93085, 2017-9-2)、6 設楽西部 (芹沢 83175, 2008-9-6)。西：5 稲武 (芹沢 91511, 2016-9-11)、19 旭 (芹沢 63183, 1992-9-8)、28 額田 (芹沢 84817, 2009-9-5)。

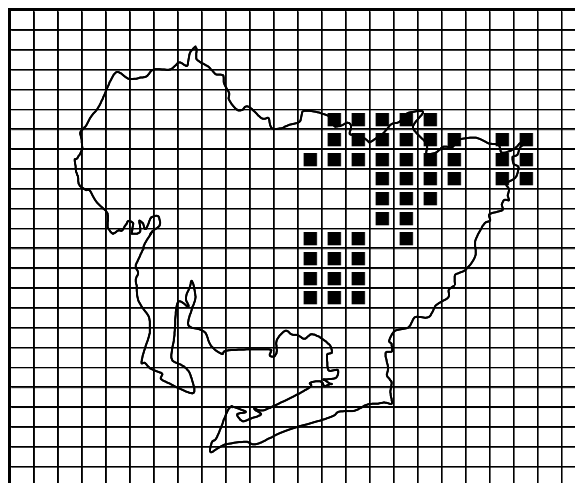
【国内の分布】

本州 (長野県、岐阜県、愛知県)、九州 (熊本県)。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地沢沿いの湿地状の場所に生育する。比較的自然度の高い場所に多いが、林道わきなどに見られることもある。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地		○	○	
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

既知の生育地は限られているが、その場所ではたいてい群生している。一部の場所ではニホンジカによる食害が見られる。イノシシが湿地を攪乱し、その結果激減してしまった場所もある。

【保全上の留意点】

既知の生育地を保全する必要がある。獣害対策も必要である。1年生草本なので、生育地を決定的に破壊しなければ存続すると思われる。

【特記事項】

ミヤマタニソバに似ているが、花序の枝は長く伸びて地表に垂れ、先端に閉鎖花状の花をつける。葉はミヤマタニソバより明瞭に 3 裂し、頂裂片はやや卵形を帯びる。またミヤマタニソバの托葉鞘は先端がやや葉状になり縁毛がないが、本種の托葉鞘は先端が葉状にならず縁毛がある。彩色画は、2009 年版図版 9 に掲載されている。

【関連文献】

平新版 4 p.92.